

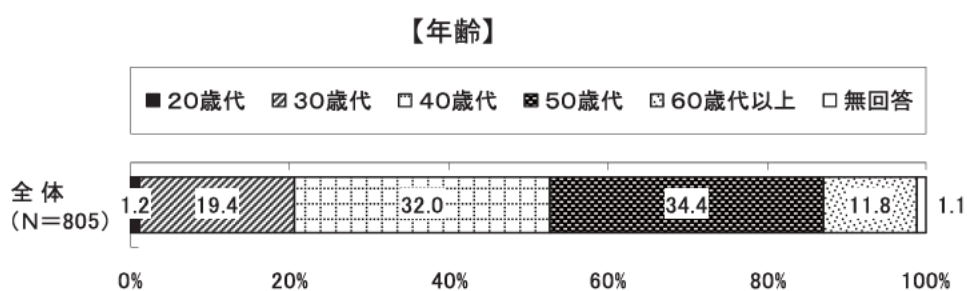
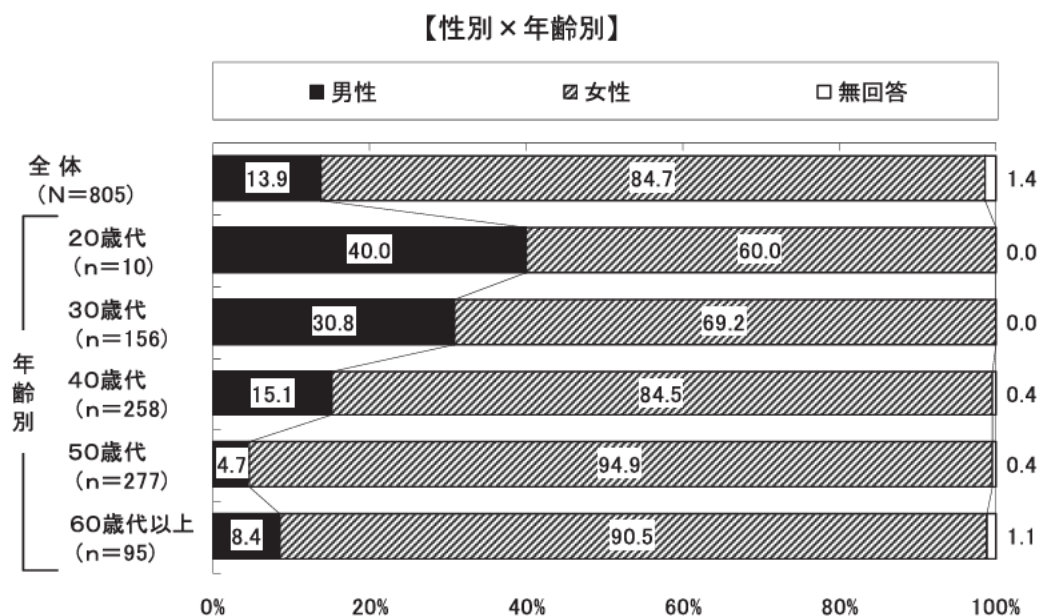
第6章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性

(1) 性別、年齢

問1 あなたの性別は。

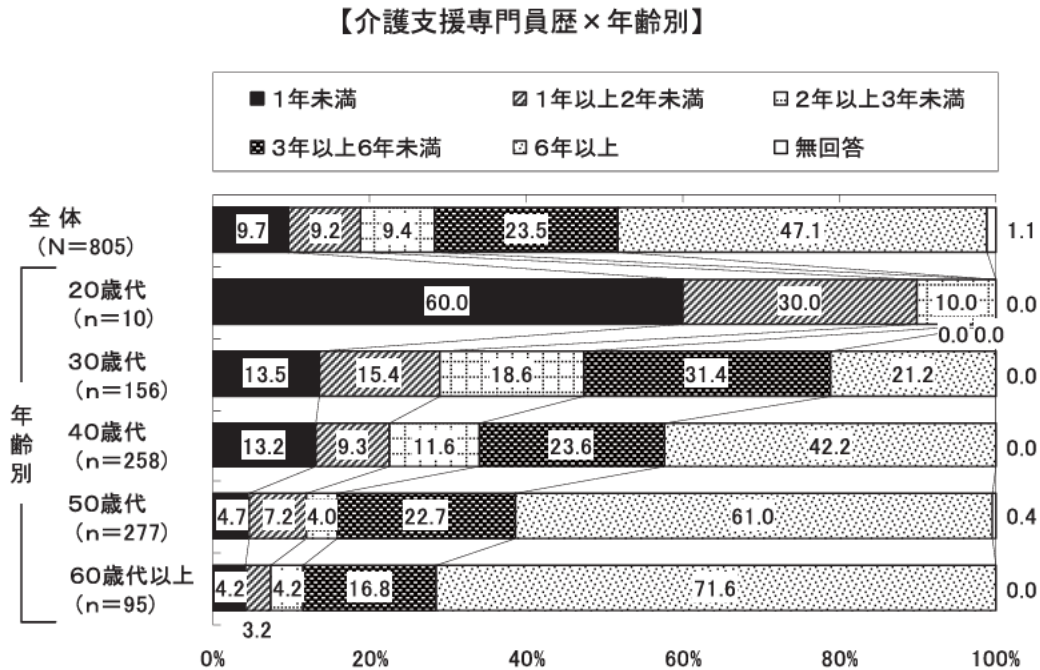
問2 あなたの年齢は。(平成25年10月1日現在)



介護支援専門員は、女性が84.7%と多く、特に50歳代以上で90%を超えている。年齢別では50歳代が34.4%、40歳代が32.0%と、それぞれ30%台を占めている。

(2) 介護支援専門員歴

問3 あなたが介護支援専門員として働き始めてから何年ですか。(〇は1つ)



介護支援専門員の経験年数は、「6年以上」が47.1%で最も多く、次いで「3年以上6年未満」が23.5%を占めている。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「6年以上」が上昇し、60歳以上では70%を超えている。

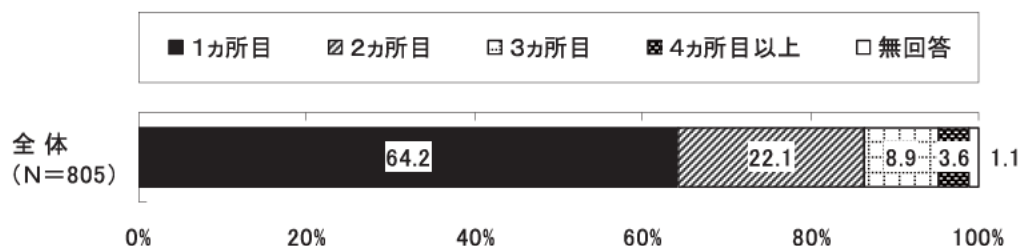
(3) 介護支援専門員として働き始めて何カ所目の事業所か・移った理由

問4 あなたが現在勤めている居宅介護支援事業所は、介護支援専門員として働き始めて何カ所目の事業所ですか。

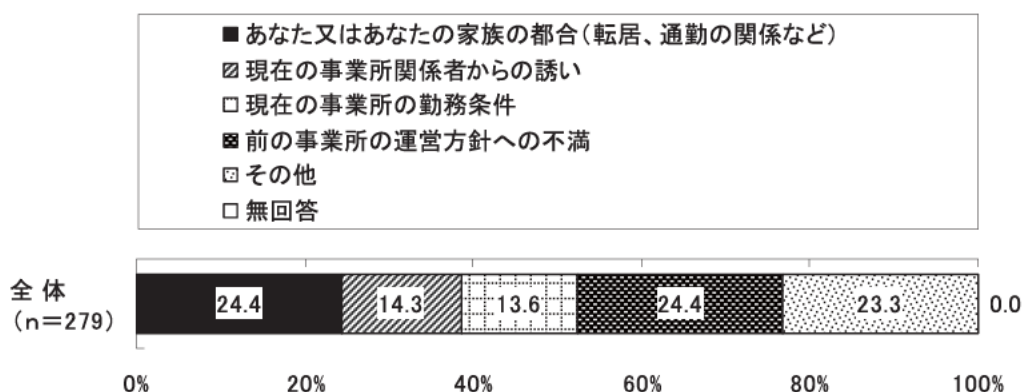
【問4で「2カ所目」以上と答えた方にうかがいます】

問4-1 現在、勤務している事業所に移った理由は何ですか。(○は1つ)

【介護支援専門員として働き始めて何カ所目の事業所か】



【移った理由】

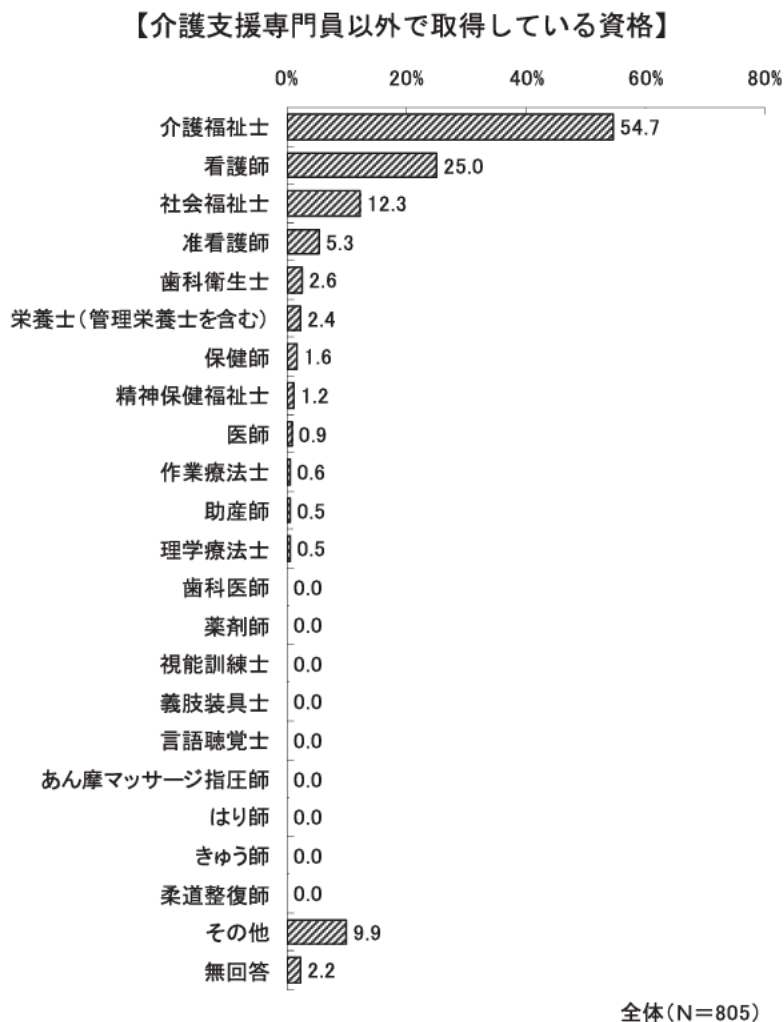


介護支援専門員として働き始めて、「1カ所目」の事業所と回答した人は64.2%と最も多く、次いで「2カ所目」は22.1%となっている。

事業所を移った理由は、「あなた又はあなたの家族の都合(転居、通勤の関係など)」、「前の事業所の運営方針への不満」がともに24.4%を占め、次いで「現在の事業所関係者からの誘い」が14.3%、「現在の事務所の勤務条件」が13.6%となっている。

(4) 介護支援専門員以外で取得している資格

問5 あなたが介護支援専門員以外に取得している資格などは何ですか。(〇はいくつでも)



介護支援専門員以外で取得している資格は、「介護福祉士」が 54.7%で最も多く、次いで「看護師」が 25.0%となっている。

(5) 勤務形態・兼務内容・従事時間

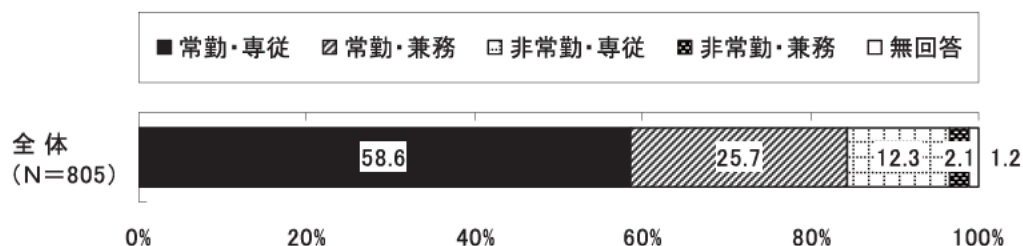
問6 あなたの勤務形態は次のうちどれですか。(〇は1つ)

【問6で「2.」が「4.」と答えた方にうかがいます】

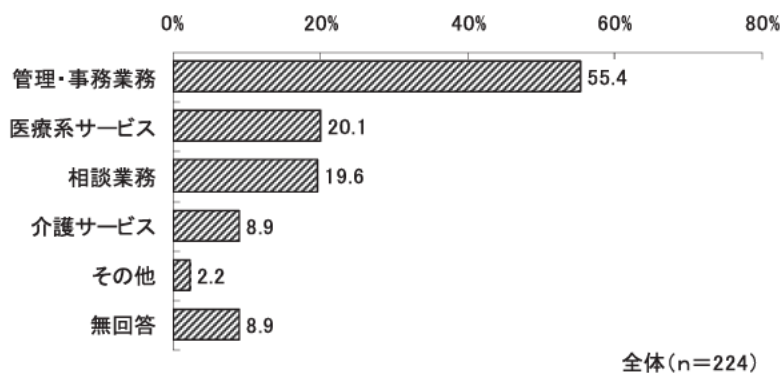
問6-1 どのような業務を兼務していますか。(〇はいくつでも)

問6-2 一週間のうち、居宅介護支援に従事する時間は平均どれくらいですか。

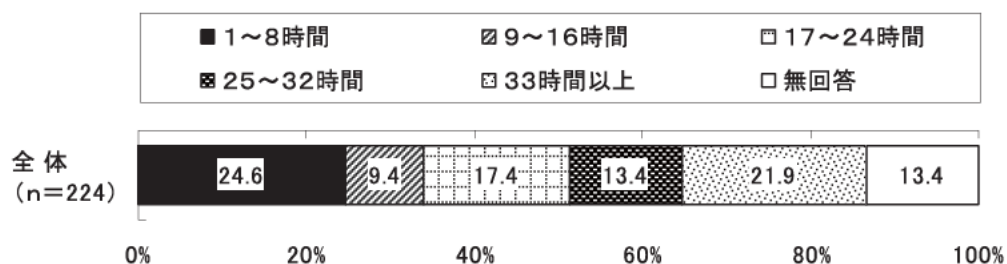
【勤務形態】



【兼務内容】



【従事時間】



勤務形態では、「常勤・専従」が58.6%、「常勤・兼務」が25.7%で、『常勤』が84.3%を占めている。

常勤・非常勤にかかわらず兼務している人の業務内容は「管理・事務業務」が55.4%で最も多く、次いで「医療系サービス」が20.1%となっている。

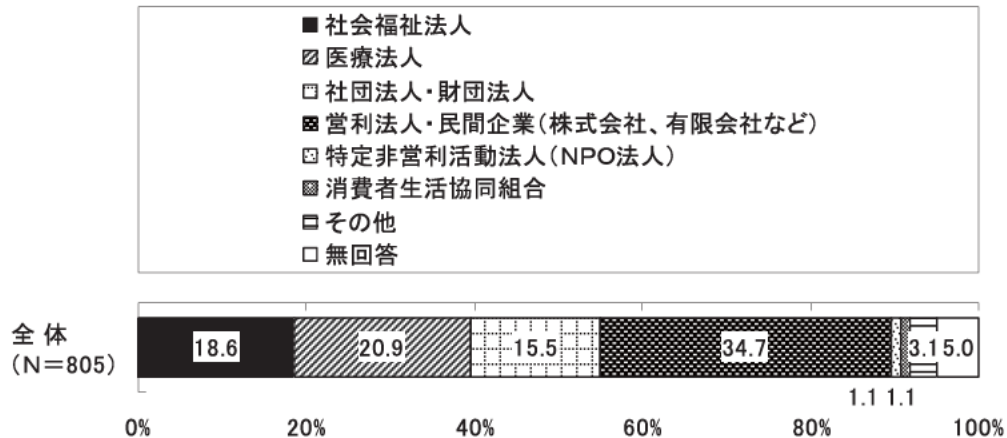
一週間のうち、居宅介護支援に従事する平均時間は、「1～8時間」が24.6%で最も多く、次いで「33時間以上」が21.9%となっている。

(6) 事業所の法人種別・介護支援専門員の人数

問7 あなたが所属している居宅介護支援事業所の法人種別などは何ですか。(〇は1つ)

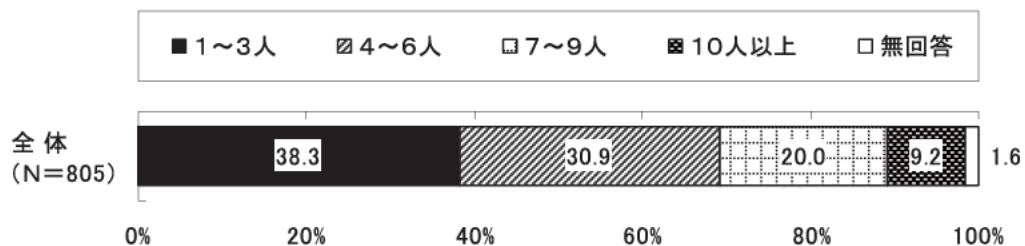
問8 あなたが所属している居宅介護支援事業所には、あなたを含めて何人の介護支援専門員がいますか。

【事業所の法人種別】



事業所の法人種別をみると、「営利法人・民間企業(株式会社、有限会社など)」が34.7%で最も多く、次いで「医療法人」が20.9%となっている。

【事業所の介護支援専門員の人数】



所属している事業所の介護支援専門員の人数をみると、「1～3人」が38.3%、「4～6人」が30.9%と、6人以下が約7割を占めている。

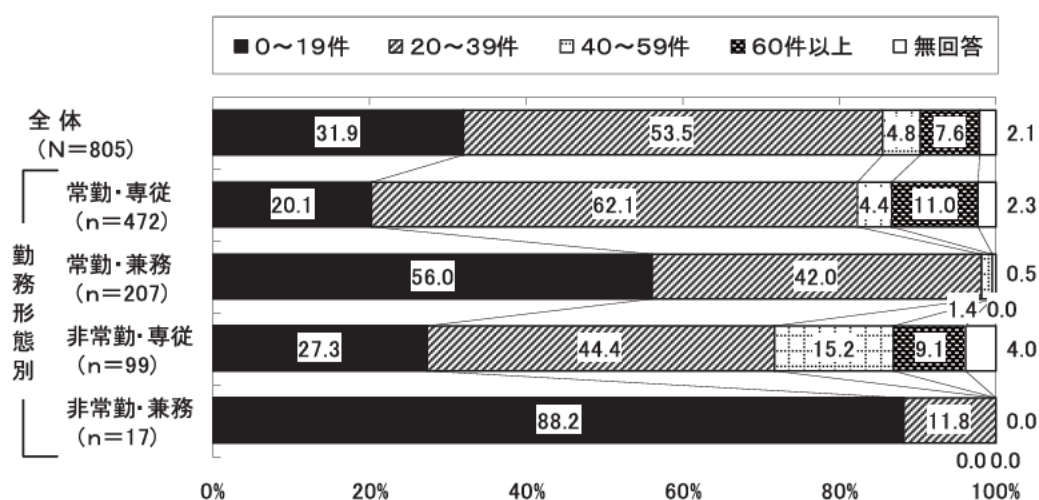
2. ケアマネジメントについて

(1) 給付管理件数

【以下の設問(問9～問16-1)は平成25年10月の状況について教えてください】

問9 あなたが給付管理を行ったケース(利用者が10月にサービスを利用し、介護報酬の対象となったケース)は何件ですか。

【給付管理件数×勤務形態別】

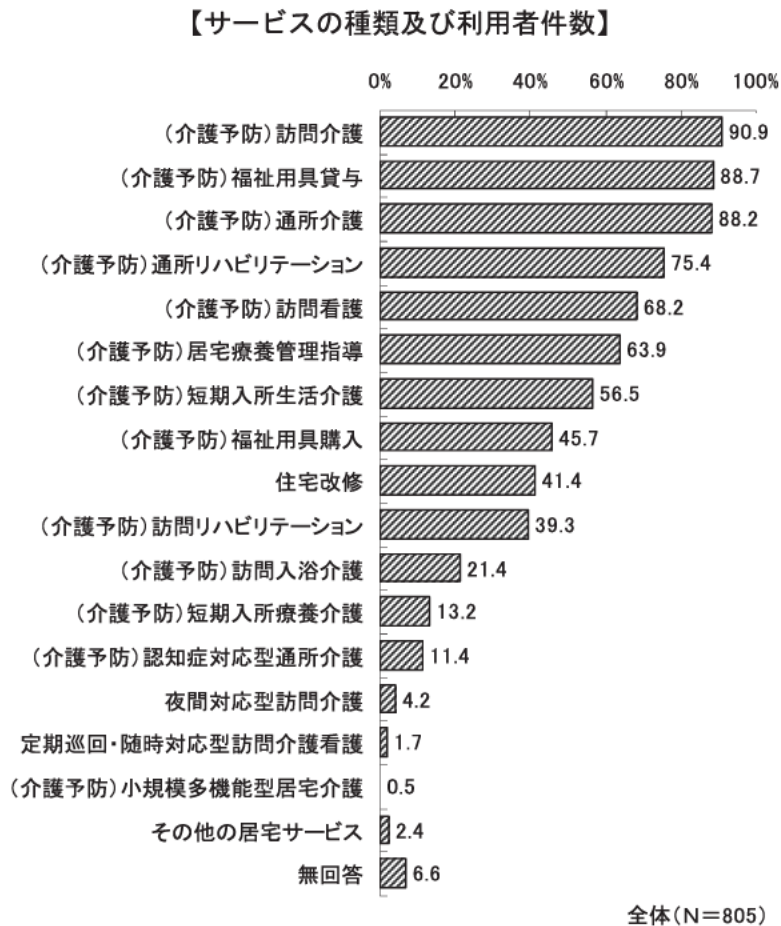


平成25年10月の一人当たりの給付管理件数は27.3件(平成22年9月の件数24.6件)となっている。

勤務形態別にみると、常勤専従は一人当たり平均31.8件(平成22年9月の件数28.6件)、常勤兼務は17.2件(平成22年9月の件数18.8件)、非常勤専従は31.0件(平成22年9月の件数16.0件)、非常勤兼務は7.8件(平成22年9月の件数8.3件)となっている。

(2) サービスの種類及び利用者件数

問 10 現在居宅サービス計画に位置づけているサービス種類及び利用者件数はどれくらいですか。当てはまるサービスの番号を○で囲み、件数を記入してください。(○はいくつでも)



居宅サービス計画に位置づけているサービスの種類及び利用者件数では、「(介護予防)訪問介護」が 90.9%と最も多く、次いで「(介護予防)福祉用具貸与」が 88.7%、「(介護予防)通所介護」が 88.2%と、いずれも 80%を超えている。

(3) 不足していると思うサービス

問 11 現在あなたが担当しているケース（利用者）について、居宅サービス計画を作成する上で、不足していると思うサービスは何ですか。ケース毎に要介護度と不足していると思うサービスを下記の選択肢から選び、該当する番号を記入してください。

【不足していると思うサービス×要介護度別】

(%)

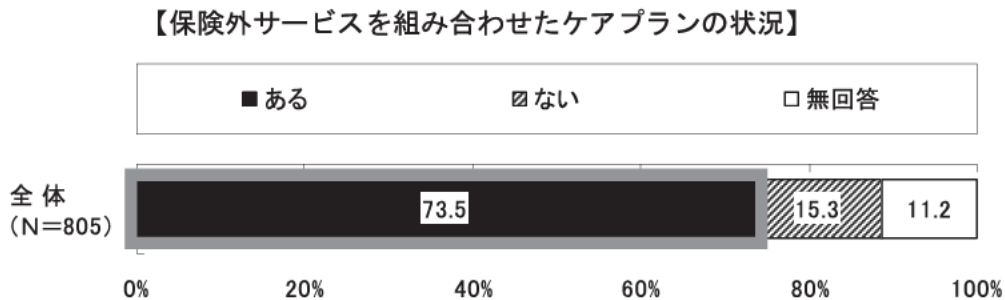
	回答数	訪問介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	福祉用具貸与	住宅改修	小規模多機能型居宅介護	定期巡回	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護	その他	無回答	
全体	1,232 100.0	311 25.2	173 14.0	112 9.1	340 27.6	230 18.7	240 19.5	83 6.7	82 6.7	36 2.9	33 2.7	47 3.8	35 2.8	30 2.4	52 4.2	0 0.0	
要介護度別	要支援1	217	22.3	9.8	6.6	25.7	17.9	8.8	2.2	4.0	3.0	2.0	0.9	1.2	0.7	1.9	0.0
	要支援2	197	13.6	9.7	4.6	21.3	15.1	9.3	2.8	4.2	2.4	2.9	0.5	0.8	0.8	2.2	0.0
	要介護1	307	37.7	17.4	9.2	45.8	27.9	21.0	6.0	6.5	2.8	3.5	4.4	2.2	3.2	1.9	0.0
	要介護2	206	21.3	11.1	7.8	18.7	15.5	16.0	5.7	4.5	1.9	1.9	3.8	1.5	2.3	1.5	0.0
	要介護3	156	13.2	6.6	6.1	10.6	8.4	15.3	6.7	2.3	0.8	0.8	2.2	1.3	1.8	2.8	0.0
要介護4	78	6.7	3.2	2.8	5.4	4.9	8.4	4.1	1.2	0.2	0.4	1.0	0.9	0.8	0.7	0.0	
要介護5	71	3.7	3.7	3.6	2.4	2.4	6.6	4.5	0.7	0.3	0.4	1.1	1.3	0.3	1.1	0.0	

給付管理を行っているケース（21,485件）のうちサービスが不足しているケースは1,232件で、全体の5.7%となっている。不足していると思うサービスは「通所介護」が27.6%で最も多く、次いで「訪問介護」が25.2%となっている。

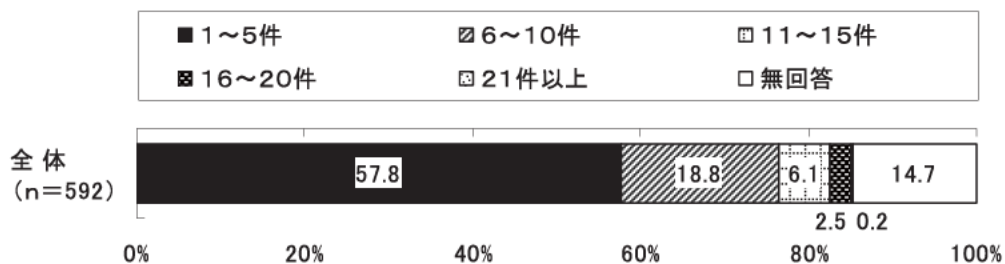
要介護度別にみると、要介護1で「通所介護」が45.8%、「訪問介護」が37.7%と、他と比べて高くなっている。その他、「短期入所生活介護」では要介護2、3でも、他の要介護と比べて高くなっている。

(4) 保険外サービスを組み合わせたケアプランの状況

問 12 市の福祉サービス、ボランティアなどの保険外サービスを組み合わせて作成したケアプランはありますか。あればその件数も記入してください。(〇は1つ)



【保険外サービスと組み合わせてケアプランを作成した件数】



保険外サービスを組み合わせて作成したケアプランは合計 2,564 件で、全体 (21,485 件) の 11.9% となっている。

ケアマネジャー全体 (805 人) の 73.5% (592 人) が保険外サービスと組み合わせてケアプランを作成したと回答しており、保険外サービスと組み合わせてケアプランを作成したケースは「ない」が 15.3% (123 人) となっている。

また、保険外サービスと組み合わせてケアプランを作成した件数は、「1～5件」が 57.8%、「6～10件」が 18.8% で、一人当たりの件数は 5.1 件となっている。

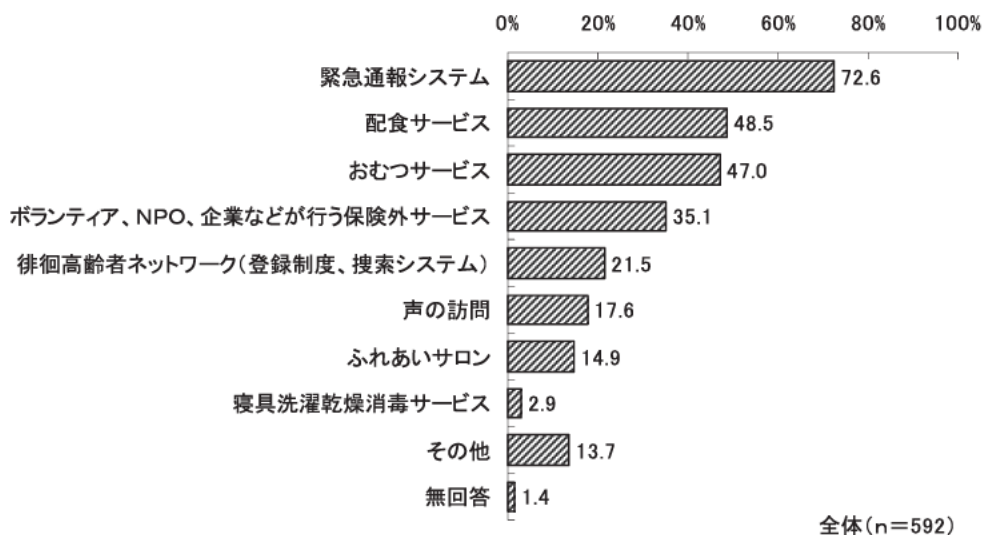
(5) 組み合わせた保険外サービスの種類・今後充実が必要なサービスの種類

【問12で「1.」と答えた方にうかがいます】

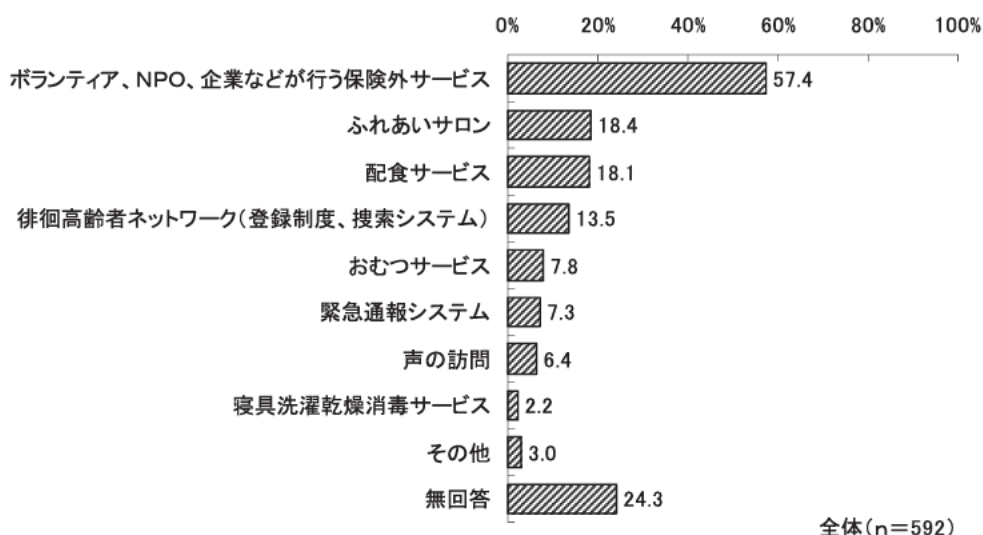
問12-1 そのサービスの種類は何ですか。該当するものの番号を○で囲み、またケースの件数も記入してください。(○はいくつでも)

問12-3 現在不足しており、今後充実が必要と思うサービスは何ですか。(○はいくつでも)

【組み合わせた保険外サービスの種類】



【今後充実が必要なサービスの種類】



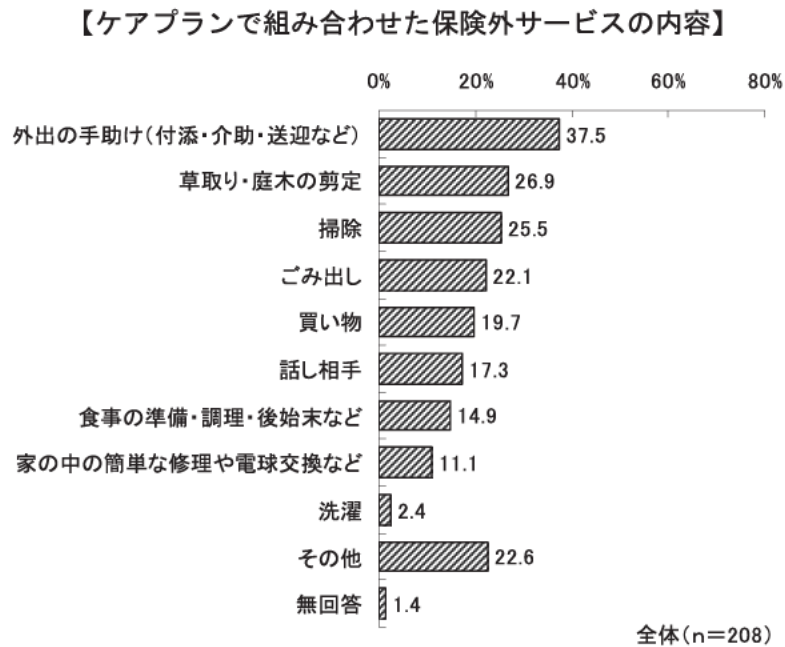
組み合わせた保険外サービスの種類は「緊急通報システム」が72.6%で最も多く、次いで「配食サービス」が48.5%、「おむつサービス」が47.0%となっている。

今後充実が必要なサービスの種類では、「ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービス」が57.4%で最も多くなっている。

(6) ケアプランで組み合わせた保険外サービスの内容

【問 12-1で「8. 」と答えた方にうかがいます】

問 12-2 ケアプランで組み合わせた保険外サービスの内容は何ですか。(〇はいくつでも)

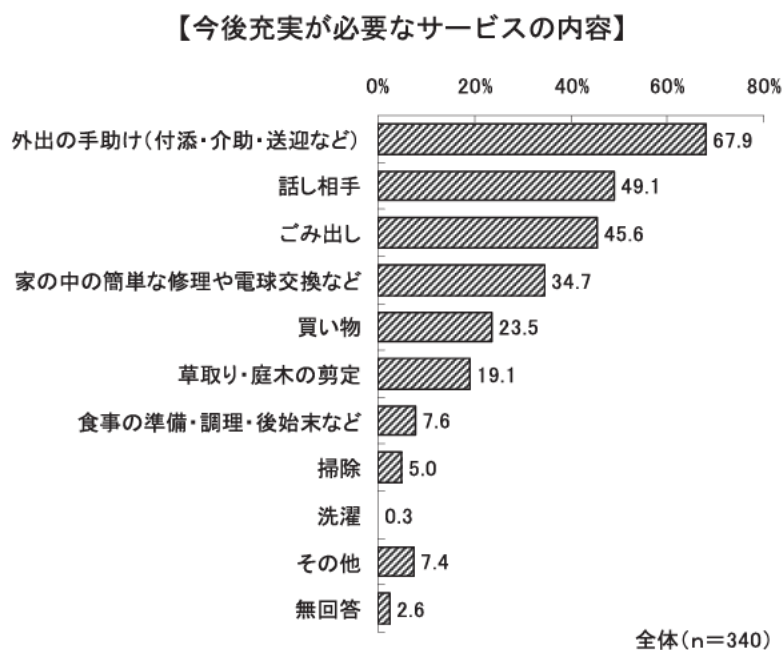


ケアプランで組み合わせた保険外サービスの内容は、「外出の手助け(付添・介助・送迎など)」が 37.5%で最も多く、次いで「草取り・庭木の剪定」が 26.9%で続いている。

(7) 今後充実が必要なサービスの内容

【問 12-3で「8.」と答えた方にうかがいます】

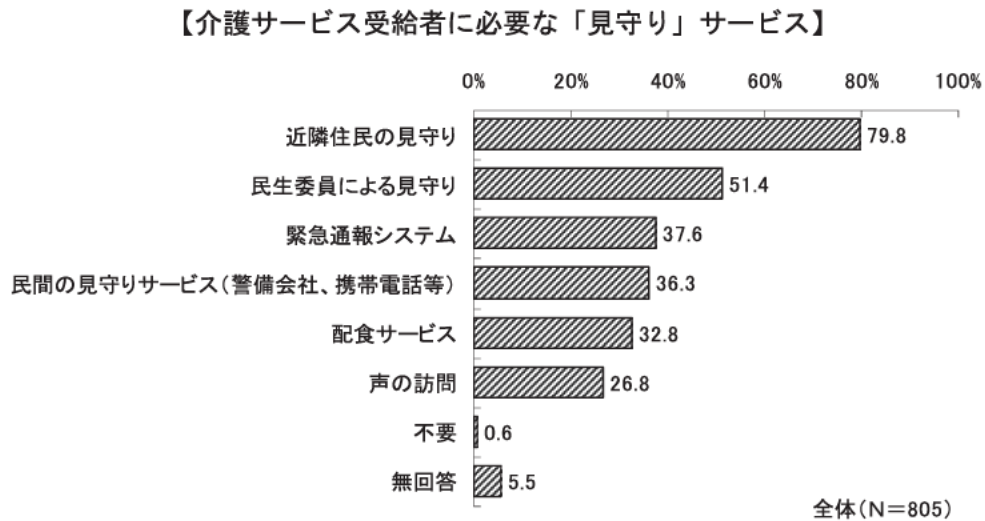
問 12-4 今後充実が必要な保険外サービスの具体的な内容は何ですか。(〇は3つまで)



今後充実が必要な保険外サービスの具体的な内容は、「外出の手助け(付添・介助・送迎など)」が 67.9% で最も多く、次いで「話し相手」が 49.1%、「ごみ出し」が 45.6%で続いている。

(8) 介護サービス受給者に必要な「見守り」サービス

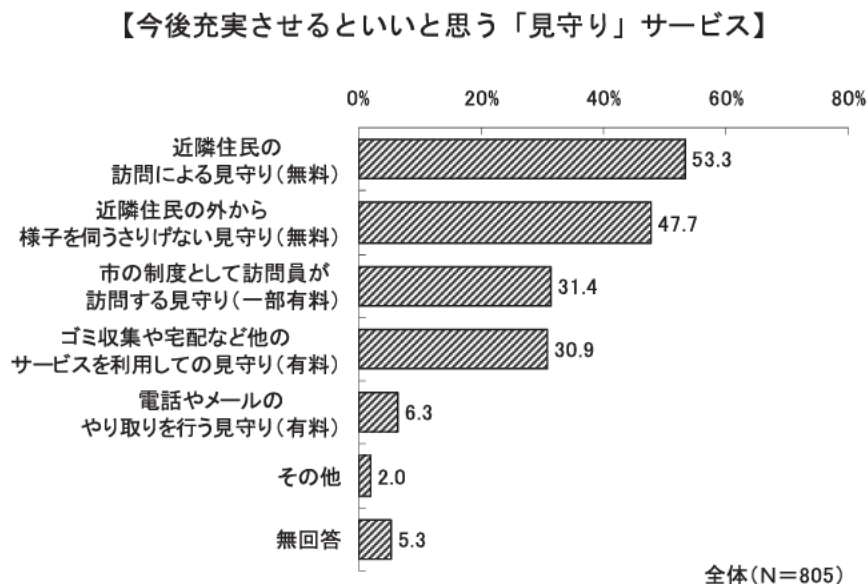
問 13 介護サービス受給者の場合、どういった「見守り」サービスが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



介護サービス受給者に必要な「見守り」サービスは、「近隣住民の見守り」が 79.8%で最も多く、次いで「民生委員による見守り」が 51.4%となっている。

(9) 今後充実させるといいと思う「見守り」サービス

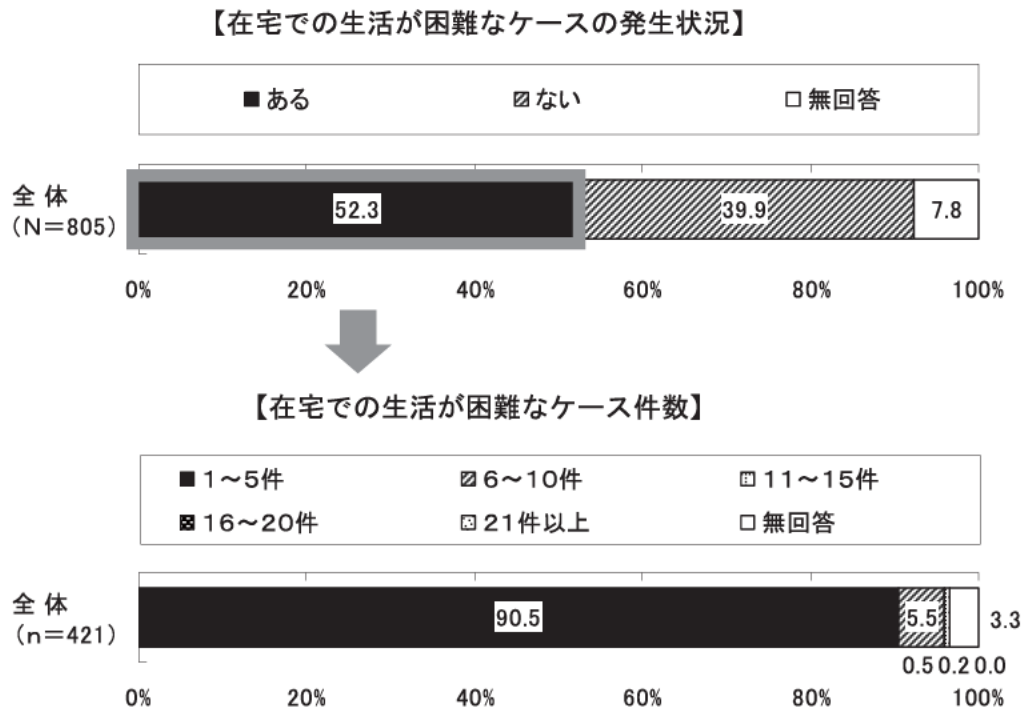
問14 どのような「見守り」サービスを今後充実させるといいと思いますか。(〇は2つまで)



今後充実させるといいと思う「見守り」サービスは、「近隣住民の訪問による見守り(無料)」が53.3%、次いで「近隣住民の外から様子を伺うさりげない見守り(無料)」が47.7%で続いている。

(10) 在宅での生活が困難なケースの発生状況

問 15 在宅での生活が困難なケースはありますか。あればその件数も記入してください。
(○は1つ)



在宅での生活が困難なケースは合計 947 件で全体 (21,485 件) の 4.4%となっている。

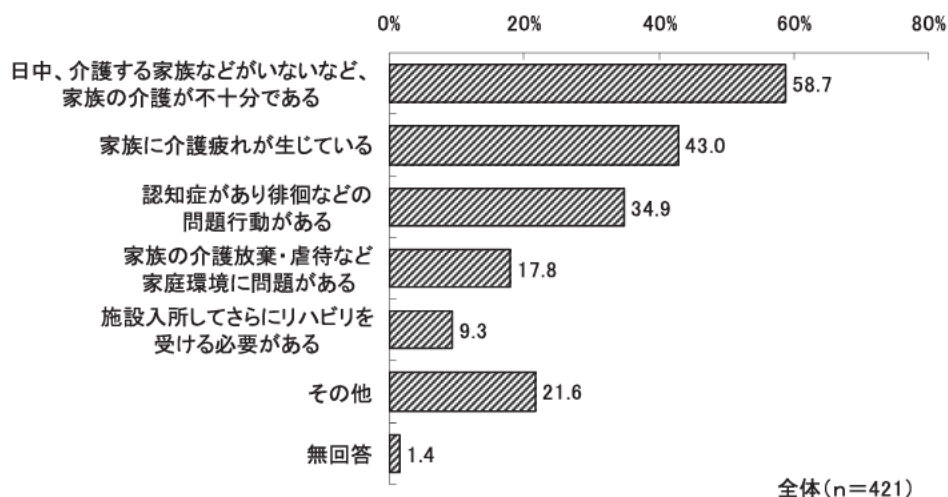
ケアマネジャー全体 (805 人) の 52.3% (421 人) が在宅での生活が困難なケースがあるとしており、「ない」が 39.9% (321 人) となっている。また困難件数は、「1～5件」が 90.5%を占めており、一人当たりの件数は 2.3 件となっている。

(11) 在宅での生活が困難なケースの内容

【問15で「1.」と答えた方にうかがいます】

問15-1 具体的にはどのようなケースですか。該当するものの番号を○で囲み、またケースの件数も記入してください。(○はいくつでも)

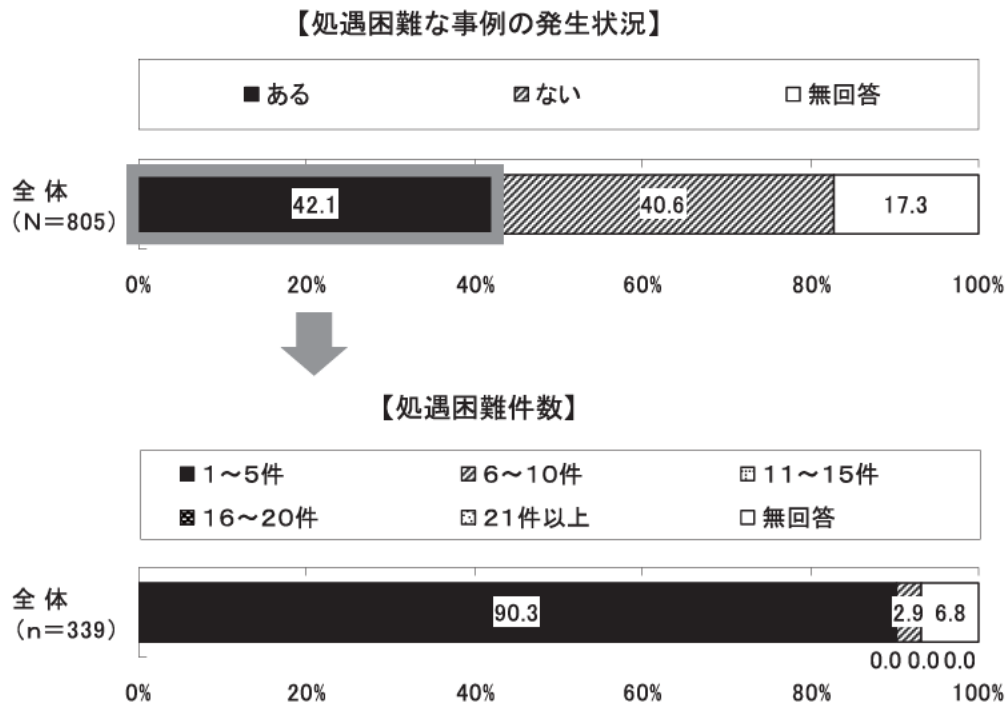
【在宅での生活が困難なケースの内容】



在宅での生活が困難なケースの内容をみると、「日中、介護する家族などがないなど、家族の介護が不十分である」が 58.7%を占め、次いで「家族に介護疲れが生じている」が 43.0%と、介護家族にかかわる問題が高い割合を占めている。

(12) 処遇困難な事例の発生状況

問 16 処遇困難な事例はありますか。あればその件数も記入してください。(〇は1つ)



処遇困難な事例は 636 件で全体 (21,485 件) の 3.0%となっている。

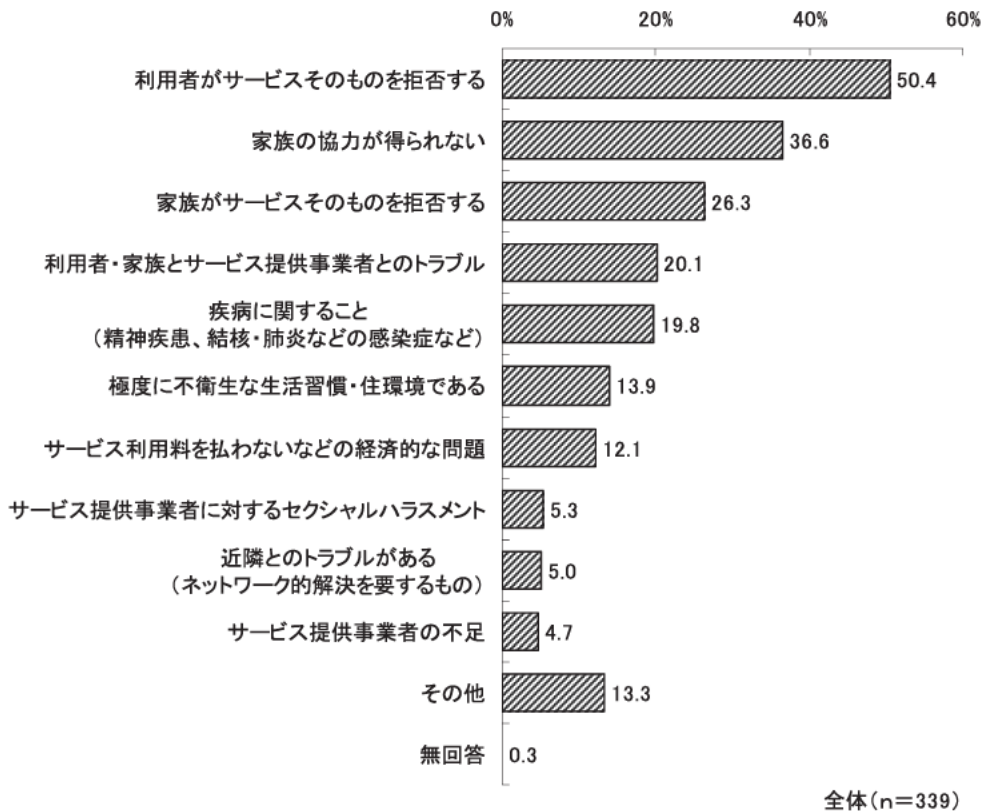
ケアマネジャー全体 (805 人) の 42.1% (339 人) が処遇困難な事例があったとしており、処遇困難件数は「1~5件」が 90.3%で、一人当たりの件数は 2.0 件となっている。

(13) 処遇困難な事例の内容

【問16で「1.」と答えた方にうかがいます】

問16-1 その事例はどのような事例ですか。該当するものの番号を○で囲み、また事例の件数も記入してください。(○はいくつでも)

【処遇困難な事例の内容】



処遇困難な事例の具体的な内容では、「利用者がサービスそのものを拒否する」が50.4%で最も多く、次いで「家族の協力が得られない」が36.6%となっている。

(14) 計画作成上利用しにくいサービス

【以下の設問(問 17～問 31)は平成 24 年4月以降の状況についてお答えください】

問 17 ケアマネジャーとして居宅サービス計画を作成するに当たり、全体的に利用しにくいサービス・必ずしも必要ではないが計画に組み込んでいるサービス(過剰サービス)・不足していると思うサービスについて、該当するものに○をつけてください。

また、その理由について下記の選択肢から選び、該当するサービス欄に番号を記入してください。(○はいくつでも)

【利用しにくいサービスとその理由】

サービスの種類	理由	(件数)					
		回答数	事業所の質が悪い	サービス利用料が高い	サービス利用の基準が厳しすぎる	サービス内容が利用者の希望とそぐわない	その他
(介護予防) 訪問介護		146	30	4	57	43	12
(介護予防) 訪問入浴介護		50	1	41	0	4	4
(介護予防) 訪問看護		92	6	69	5	6	6
(介護予防) 訪問リハビリテーション		87	1	25	43	7	11
(介護予防) 通所介護		38	14	6	0	16	2
(介護予防) 通所リハビリテーション		62	11	15	8	18	10
(介護予防) 福祉用具貸与		27	11	1	9	2	4
(介護予防) 居宅療養管理指導		35	3	9	1	11	11
(介護予防) 短期入所生活介護		61	7	9	7	16	22
(介護予防) 短期入所療養介護		40	3	7	12	5	13
(介護予防) 福祉用具購入		8	2	2	1	2	1
住宅改修		17	6	2	2	5	2
(介護予防) 小規模多機能型居宅介護		51	7	6	1	21	16
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		43	2	12	6	9	14
夜間対応型訪問介護		34	1	16	4	8	5
(介護予防) 認知症対応型通所介護		30	2	19	3	2	4
その他の居宅サービス		2	1	0	1	0	0
合 計		823	108	243	160	175	137

居宅サービス計画を作成するに当たり利用しにくいサービスは、「(介護予防) 訪問介護」が 146 件で最も多く、次いで「(介護予防) 訪問看護」が 92 件、「(介護予防) 訪問リハビリテーション」が 87 件、「(介護予防) 通所リハビリテーション」が 62 件となっている。

利用しにくい理由は、(介護予防) 訪問介護では、「サービス利用の基準が厳しすぎる」が 57 件、「サービス内容が利用者の希望とそぐわない」が 43 件、「事業所の質が悪い」が 30 件となっており、(介護予防) 訪問看護では、「サービス利用料が高い」が 69 件、(介護予防) 訪問リハビリテーションでは、「サービス利用の基準が厳しすぎる」が 43 件、「サービス利用料が高い」が 25 件となっている。

(15) 計画作成上過剰なサービス

問 17 ケアマネジャーとして居宅サービス計画を作成するに当たり、全体的に利用しにくいサービス・必ずしも必要ではないが計画に組み込んでいるサービス（過剰サービス）・不足していると思うサービスについて、該当するものに○をつけてください。

また、その理由について下記の選択肢から選び、該当するサービス欄に番号を記入してください。（○はいくつでも）

【過剰なサービスとその理由】

サービスの種類	理由	回答数	(件数)				
			かつ必ずしも必要ではないが利用者が希望し、調整が難しい	かつ必ずしも必要ではないが家族が希望し、調整が難しい	必ずしも必要ではないが関係事業所の意向が	利用を勧めた	必ずしも必要ではないが
(介護予防) 訪問介護		115	77	21	5	8	4
(介護予防) 訪問入浴介護		1	0	1	0	0	0
(介護予防) 訪問看護		22	7	8	1	4	2
(介護予防) 訪問リハビリテーション		16	8	2	2	0	4
(介護予防) 通所介護		33	10	10	7	3	3
(介護予防) 通所リハビリテーション		14	3	3	3	3	2
(介護予防) 福祉用具貸与		40	15	11	2	9	3
(介護予防) 居宅療養管理指導		49	6	1	18	2	22
(介護予防) 短期入所生活介護		11	2	6	2	1	0
(介護予防) 短期入所療養介護		1	0	0	0	0	1
(介護予防) 福祉用具購入		11	4	4	1	0	2
住宅改修		19	6	6	0	4	3
(介護予防) 小規模多機能型居宅介護		1	0	1	0	0	0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		0	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護		1	1	0	0	0	0
(介護予防) 認知症対応型通所介護		1	0	0	1	0	0
その他の居宅サービス		1	0	0	0	0	1
合 計		336	139	74	42	34	47

居宅サービス計画を作成するに当たり、全体的に必ずしも必要ではないが計画に組み込んでいるサービスは、「(介護予防) 訪問介護」が115件と最も多く、その主な理由は「必ずしも必要ではないが利用者が希望し、調整が難しかった」が77件、「必ずしも必要ではないが家族が希望し、調整が難しかった」が21件となっている。

(16) 計画作成上不足しているサービス

問 17 ケアマネジャーとして居宅サービス計画を作成するに当たり、全体的に利用しにくいサービス・必ずしも必要ではないが計画に組み込んでいるサービス（過剰サービス）・不足していると思うサービスについて、該当するものに○をつけてください。

また、その理由について下記の選択肢から選び、該当するサービス欄に番号を記入してください。（○はいくつでも）

【不足しているサービスとその理由】

理由 サービスの種類		回答数	(件数)					
			か事業所が利用者の近くになる	必要所がサービスの提供できなかった	間に業所はあったが、希望時に提供できなかった	な利用者がサービスを希望しなかった	か家族がサービスを希望しなかった	な利用者・家族がこれ以上の負担できない
(介護予防) 訪問介護		109	6	33	43	4	16	7
(介護予防) 訪問入浴介護		23	2	6	8	3	4	0
(介護予防) 訪問看護		64	4	16	16	4	20	4
(介護予防) 訪問リハビリテーション		54	23	10	15	3	1	2
(介護予防) 通所介護		80	6	6	40	6	19	3
(介護予防) 通所リハビリテーション		69	26	13	21	2	4	3
(介護予防) 福祉用具貸与		14	1	1	9	1	1	1
(介護予防) 居宅療養管理指導		15	8	1	4	0	1	1
(介護予防) 短期入所生活介護		107	30	43	8	3	5	18
(介護予防) 短期入所療養介護		43	24	8	3	1	1	6
(介護予防) 福祉用具購入		9	0	0	4	1	2	2
住宅改修		12	0	0	3	3	2	4
(介護予防) 小規模多機能型居宅介護		19	12	0	1	1	1	4
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		38	22	2	3	1	4	6
夜間対応型訪問介護		21	9	1	0	2	5	4
(介護予防) 認知症対応型通所介護		17	12	1	2	0	2	0
その他の居宅サービス		4	1	1	0	0	0	2
合 計		698	186	142	180	35	88	67

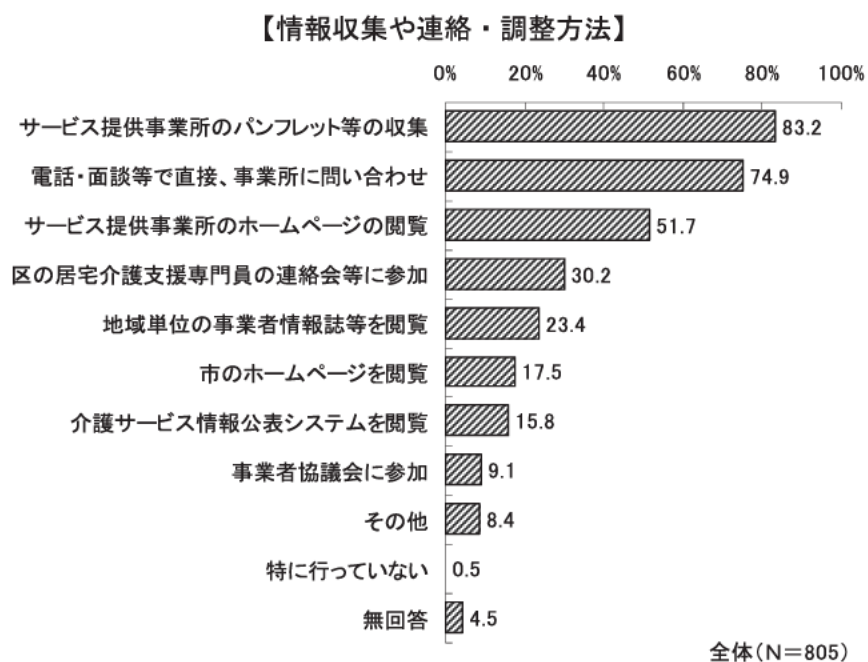
居宅サービス計画を作成するに当たり、不足していると思うサービスは「(介護予防) 訪問介護」が 109 件、「(介護予防) 短期入所生活介護」が 107 件、「(介護予防) 通所介護」が 80 件、「(介護予防) 通所リハビリテーション」が 69 件で上位にあげられている。

不足している理由は、(介護予防) 訪問介護では「利用者がサービスを希望しなかった」が 43 件、(介護予防) 短期入所生活介護では「事業所はあったが、希望時間に提供できなかった」が 43 件、(介護予防) 通所介護では「利用者がサービスを希望しなかった」が 40 件、(介護予防) 通所リハビリテーションでは、「必要なサービスを提供する事業所が利用者の近くになかった」が 26 件で最も多くなっている。

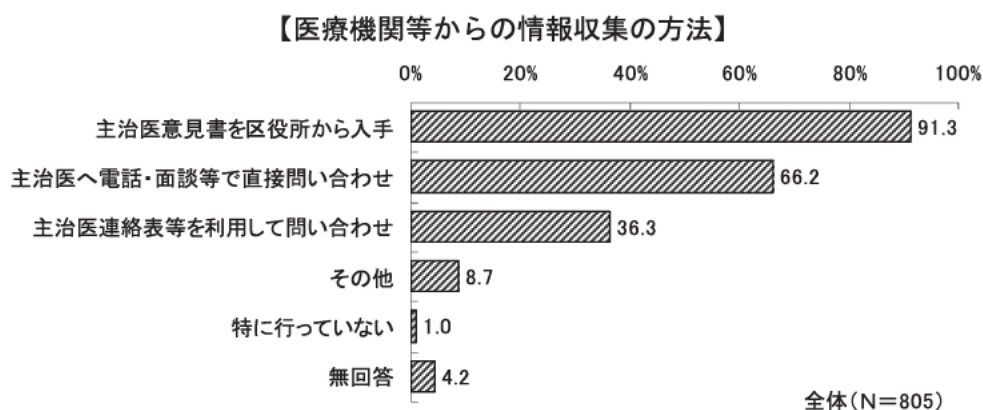
(17) 情報収集や連絡・調整方法

問 18 サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整はどのようにしていますか。
(〇はいくつでも)

問 19 居宅サービス計画の作成に当たり、医療機関等からの情報収集などはどのようにしていますか。(〇はいくつでも)



サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整方法は、「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」が 83.2%、「電話・面談等で直接、事業所に問い合わせ」が 74.9%、「サービス提供事業者のホームページの閲覧」が 51.7%で高い割合となっている。

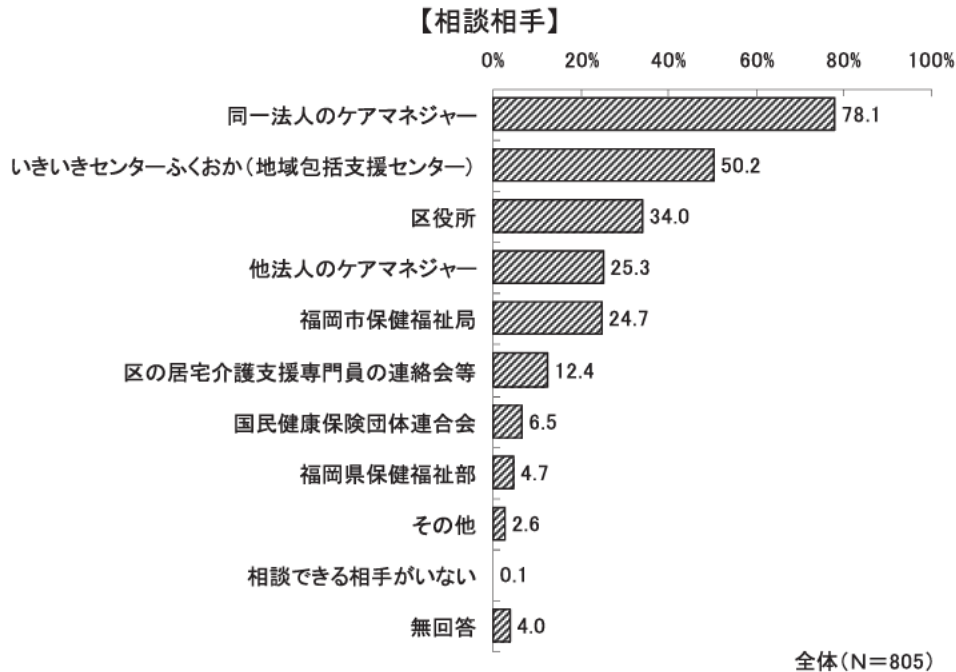


医療機関等からの情報収集の方法は、「主治医意見書を区役所から入手」が 91.3%で最も多く、次いで「主治医へ電話・面談等で直接問い合わせ」が 66.2%となっている。

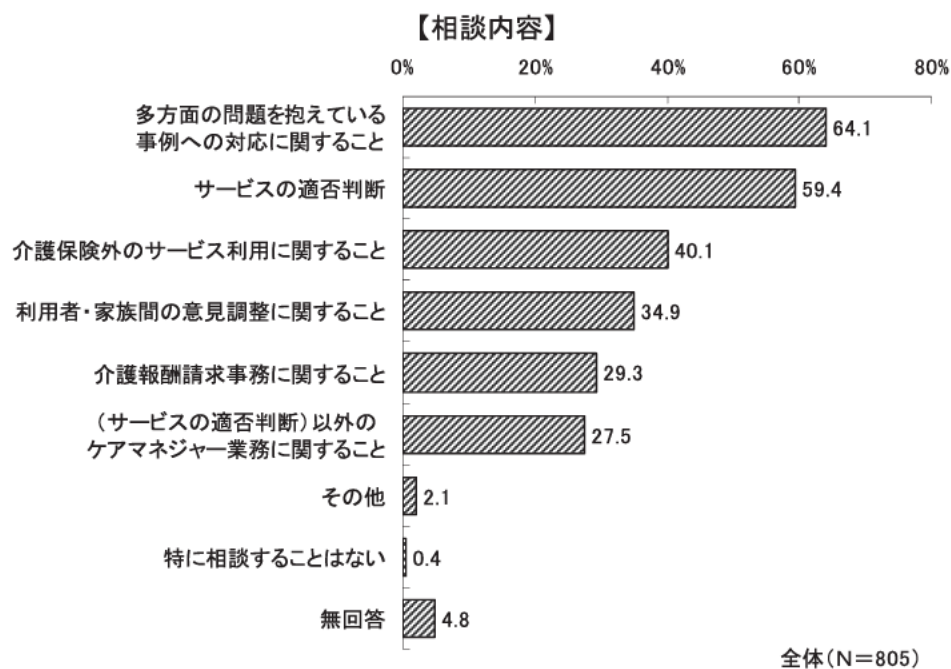
(18) 計画作成上の相談相手・相談内容

問 20 居宅サービス計画を作成する上で、分からないことや困ったことがあったとき、誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

問 21 どのようなことを相談していますか。(〇はいくつでも)



居宅サービス計画を作成する上で、分からないことや困ったことがあったときの相談相手では、「同一法人のケアマネジャー」が 78.1%で最も多く、次いで「いきいきセンターふくおか(地域包括支援センター)」が 50.2%となっている。

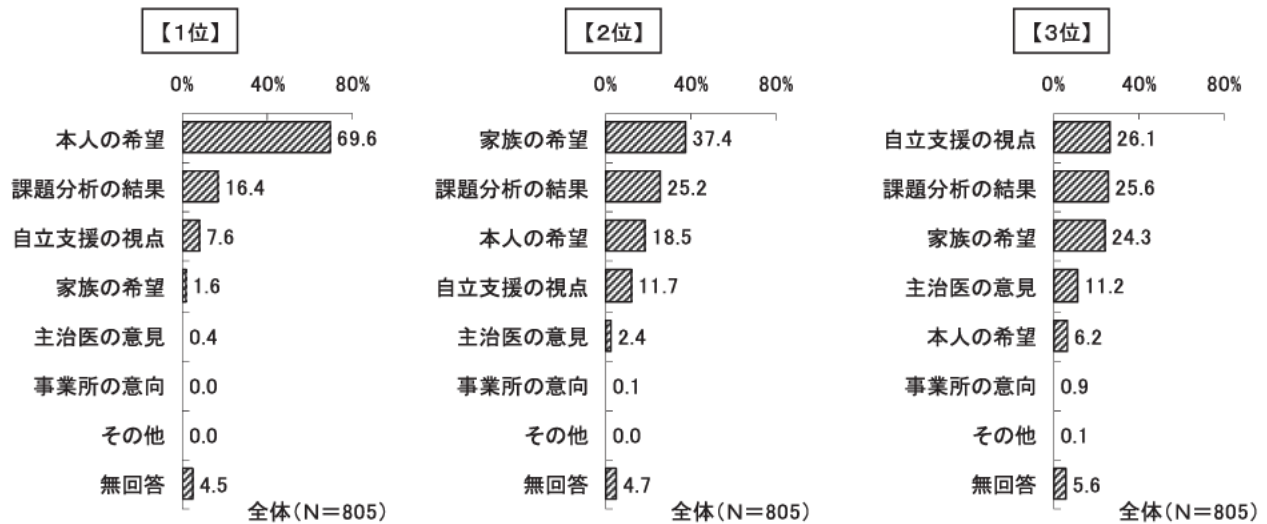


相談の内容では、「多方面の問題を抱えている事例への対応に関すること」が64.1%、「サービスの適否判断」が59.4%となっている。

(19) 計画作成の際に重視する点

問 22 居宅サービス計画を作成する際に、何を重視してサービスを組み立てていますか。下記から上位3つを選択し、番号を記入してください。

【計画作成の際に重視する点】

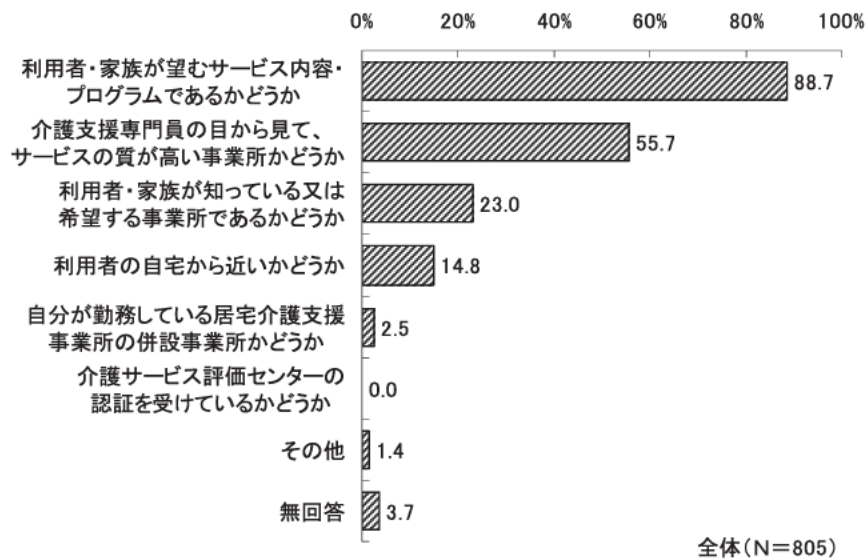


居宅サービス計画を作成する際に重視する点を第3位まであげてもらったところ、第1位で最も回答が多かった項目は「本人の希望」で69.6%と、全体の約7割となっている。第2位は「家族の希望」で37.4%、第3位は「自立支援の視点」で26.1%となっている。

(20) 事業所紹介の際に重視する点

問 23 あなたは利用者に対して、どんな基準を重視してサービス事業所を紹介していますか。
(○は2つまで)

【事業所紹介の際に重視する点】

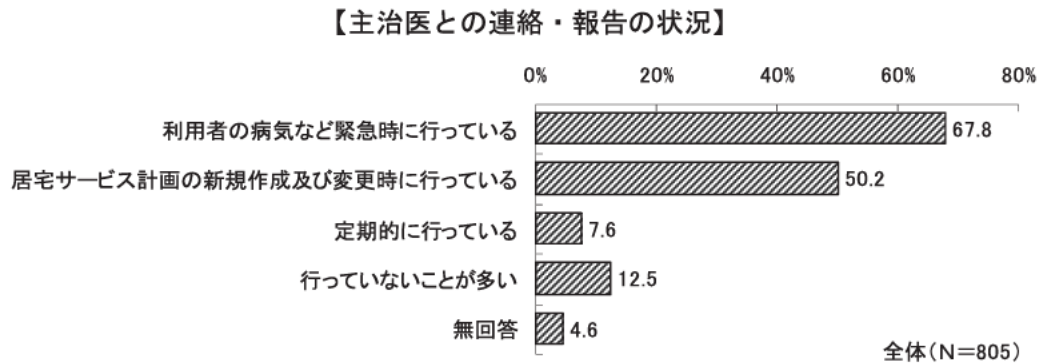


サービス事業所を紹介する際に重視する点では、「利用者・家族が望むサービス内容・プログラムであるかどうか」が88.7%で最も多く、次いで「介護支援専門員目から見て、サービスの質が高い事業所かどうか」が55.7%となっている。

3. 他機関との連携について

(1) 主治医との連絡・報告の状況

問 24 主治医との連絡・報告を行っていますか。(〇はいくつでも)

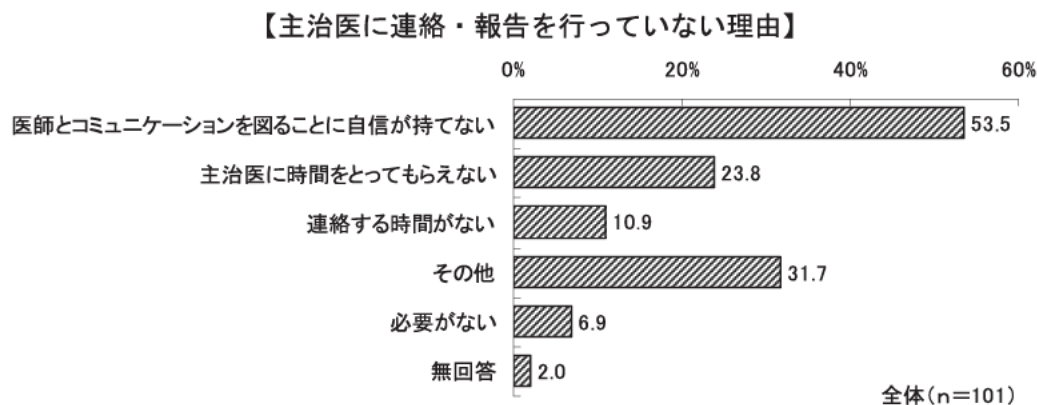


主治医との連絡・報告の状況は、「利用者者の病気など緊急時に行っている」が 67.8%、「居宅サービス計画の新規作成及び変更時に行っている」が 50.2%、「定期的に行っている」が 7.6%で、「行っていないことが多い」は 12.5%であった。

(2) 主治医に連絡・報告を行っていない理由

【問 24 で「4. 」と答えた方にうかがいます】

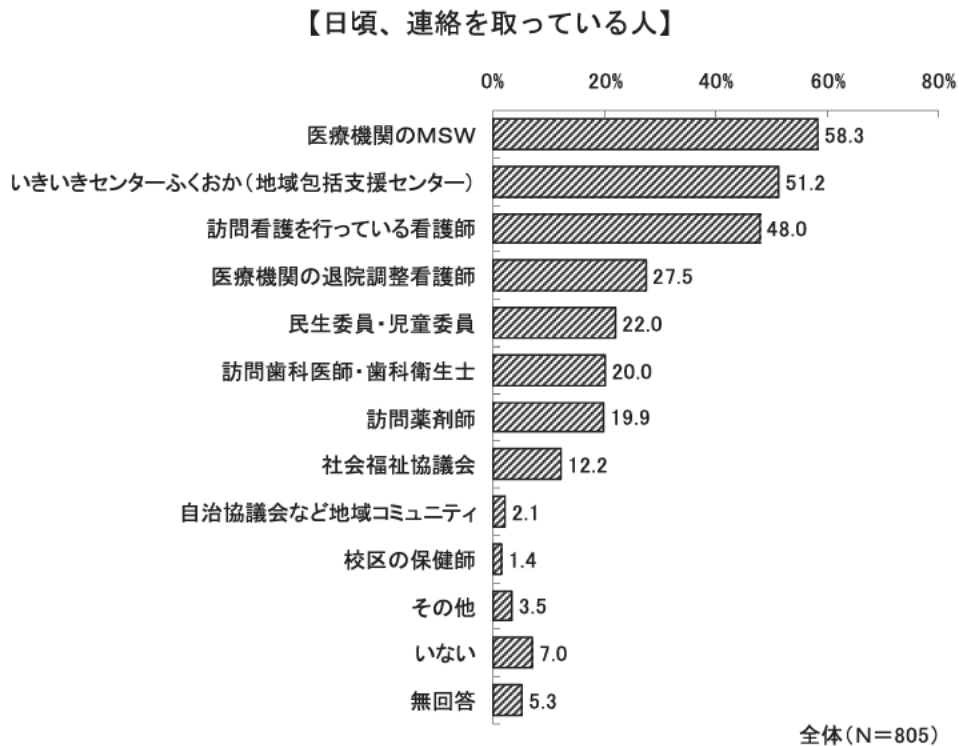
問 24-1 主治医に連絡・報告を行っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



主治医に連絡・報告を行っていないと回答した人 (101 人) に理由をたずねたところ、「医師とコミュニケーションを図ることに自信が持てない」が 53.5%で最も多く、次いで「主治医に時間をとってもらえない」が 23.8%、「連絡する時間がない」が 10.9%となっており、「必要がない」は 6.9%であった。

(3) 日頃、連絡を取っている人

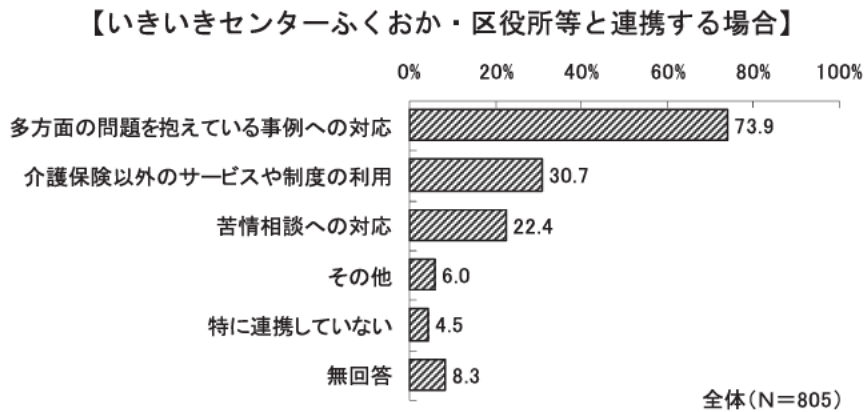
問 25 主治医・サービス事業所以外に利用者に関して日頃、連絡を取っている人はいますか。
(〇はいくつでも)



主治医・サービス事業所以外で、利用者に関して日頃連絡を取っている人は、「医療機関のMSW」が58.3%、次いで「いきいきセンターふくおか(地域包括支援センター)」が51.2%で、いずれも過半数を占めている。

(4) いきいきセンターふくおか・区役所等と連携する場合

問 26 いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）・区役所等と連携するときにはどのような場合ですか。（〇はいくつでも）

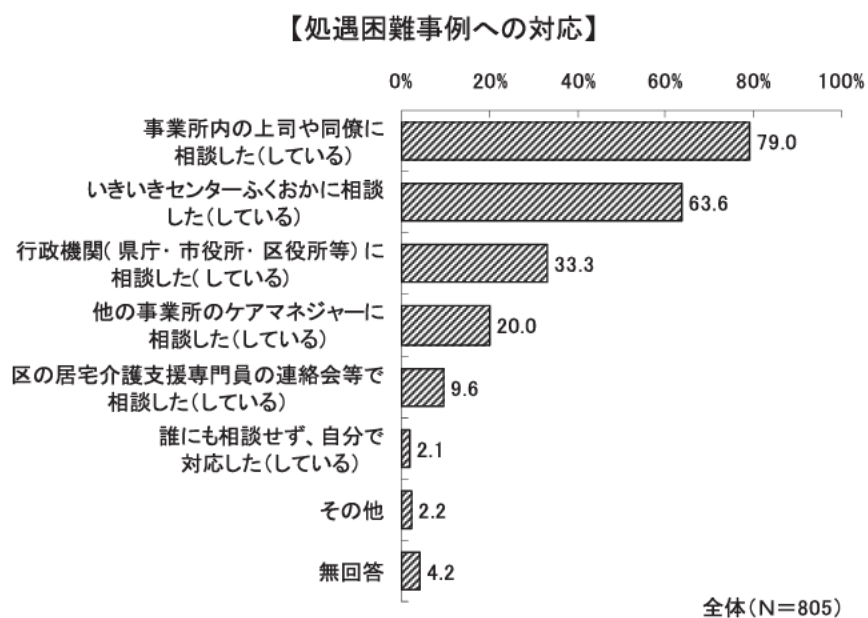


いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）や区役所等と連携する場合には、「多方面の問題を抱えている事例への対応」が 73.9%で最も多く、次いで「介護保険以外のサービスや制度の利用」が 30.7%、「苦情相談への対応」が 22.4%となっており、「特に連携していない」は 4.5%であった。

4. 処遇困難事例などへの対応について

(1) 処遇困難事例への対応

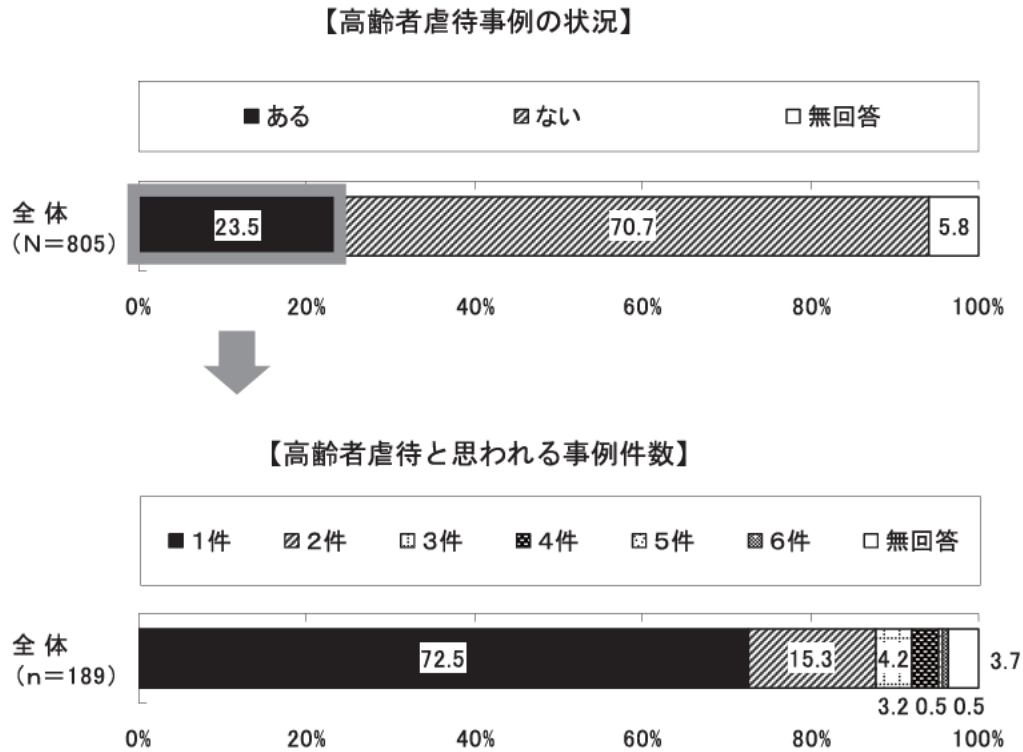
問27 あなたは処遇困難事例について主にどのように対応してきましたか。(〇はいくつでも)



処遇困難事例への対応では、「事業所内の上司や同僚に相談した(している)」が79.0%で最も多く、次いで「いきいきセンターふくおかに相談した(している)」が63.6%、「行政機関(県庁・市役所・区役所等)に相談した(している)」が33.3%が続いている。

(2) 高齢者虐待事例の状況

問 29 高齢者虐待と思われる事例はありますか。あればその件数も記入してください。(〇は1つ)



高齢者虐待事例は 254 件で、全体 (21, 485 件) の 1.2% となっている。

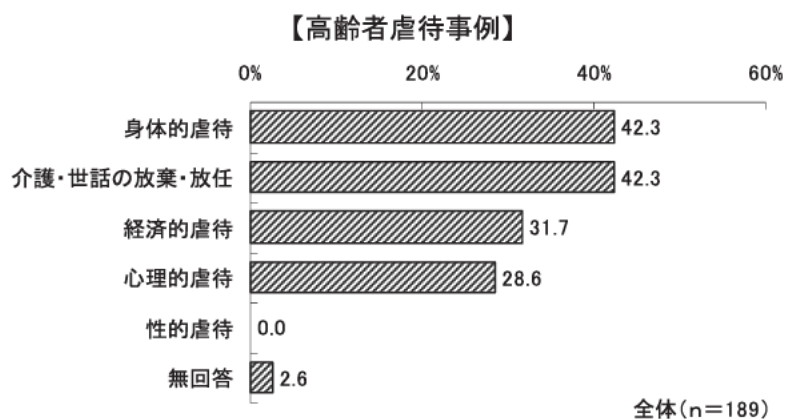
高齢者虐待と思われる事例が「ある」と回答した人は全体の 23.5% (189 人)、「ない」は 70.7% (569 人) となっている。また高齢者虐待と思われる事例件数は、「1 件」が 72.5% となっている。

(3) 高齢者虐待の事例と対応

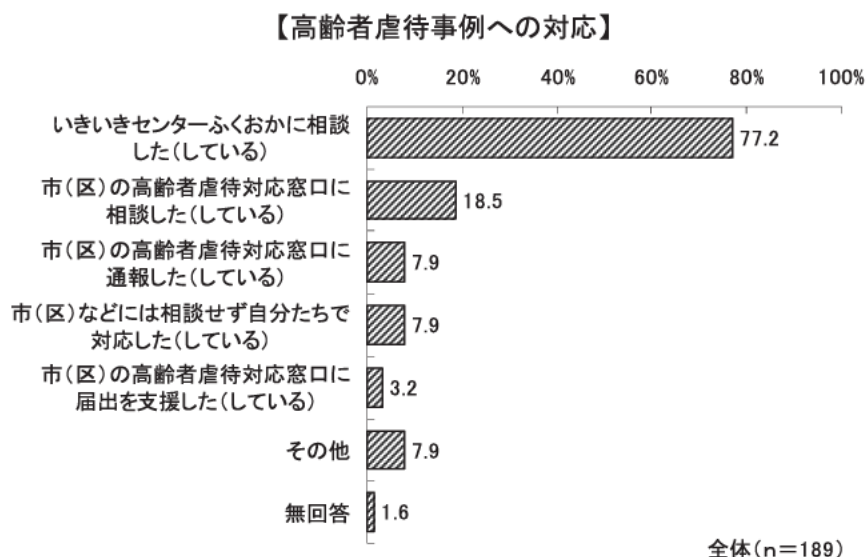
【問29で「1.」と答えた方にかがいます】

問29-1 その事例はどのような事例ですか。該当するものの番号を○で囲み、また事例の件数も記入してください。(○はいくつでも)

問29-2 あなたは高齢者虐待事例について主にどのように対応してきましたか。(○はいくつでも)



高齢者虐待と思われる事例は、「身体的虐待」、「介護・世話の放棄・放任」が、いずれも42.3%、「経済的虐待」が31.7%、「心理的虐待」が28.6%となっている。



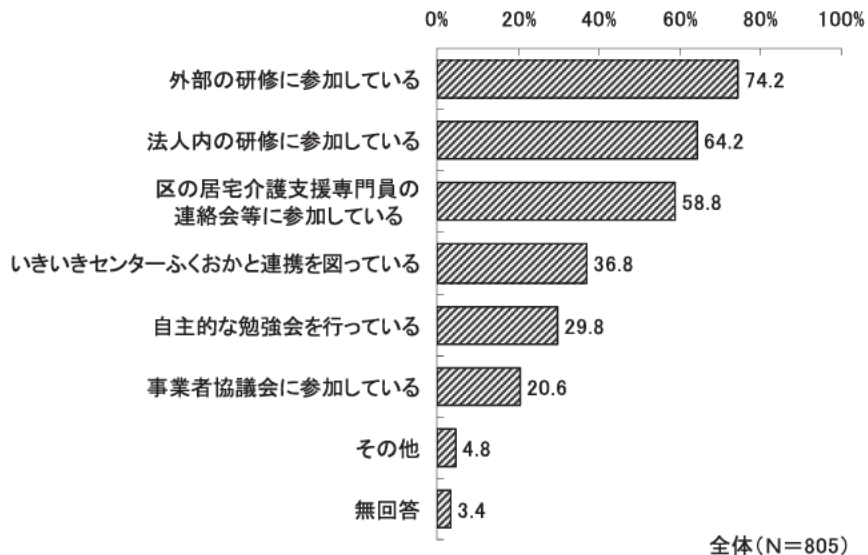
高齢者虐待事例への対応は、「いきいきセンターふくおかに相談した(している)」が77.2%で最も多くなっている。

5. 資質向上の取り組みについて

(1) 業務のレベルアップのために行っている取り組み

問 30 自分のケアマネジャー業務のレベルアップのために、どのような取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

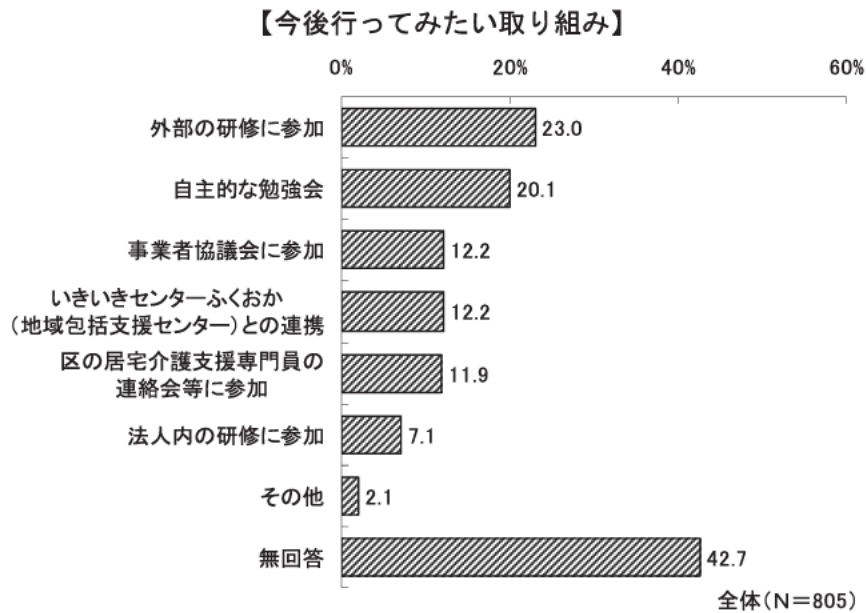
【業務のレベルアップのために行っている取り組み】



ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取り組みでは、「外部の研修に参加している」が 74.2%、「法人内の研修に参加している」が 64.2%、「区の居宅介護支援専門員の連絡会等に参加している」が 58.8%と、高い割合を占めている。

(2) 今後行ってみたい取り組み

問30-1 問30の取り組みのうち、現在行っていないが今後行ってみたいと思っている取り組みはありますか。(〇はいくつでも)



現在行っていないが今後行ってみたいと思っている取り組みでは、「外部の研修に参加」が23.0%で最も多く、次いで「自主的な勉強会」が20.1%となっている。

6. 介護認定調査・介護予防支援業務について

(1) 介護予防マネジメントの効果の有無・その理由

問 32 予防給付サービスの提供に際し、介護予防マネジメントが利用者の状態の改善や生活機能の向上に効果的であったと思いますか。(〇は1つ)

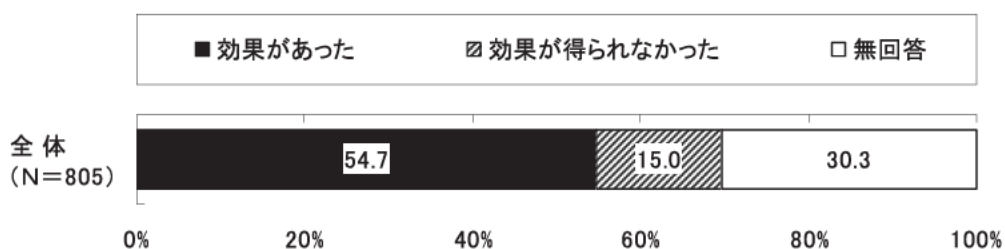
【問 32 で「1.」と答えた方にかかっています】

問 32-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【問 32 で「2.」と答えた方にかかっています】

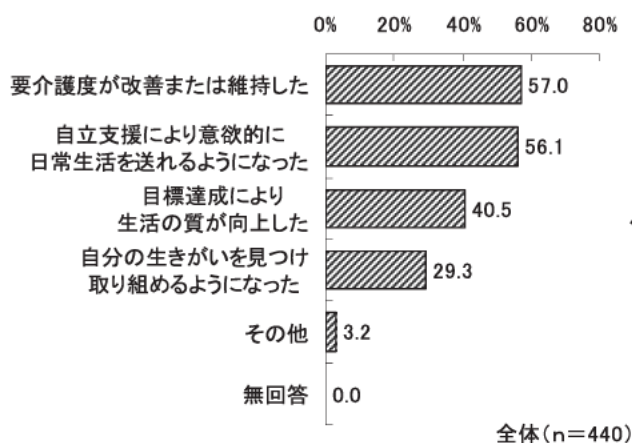
問 32-2 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【介護予防マネジメントの効果の有無】

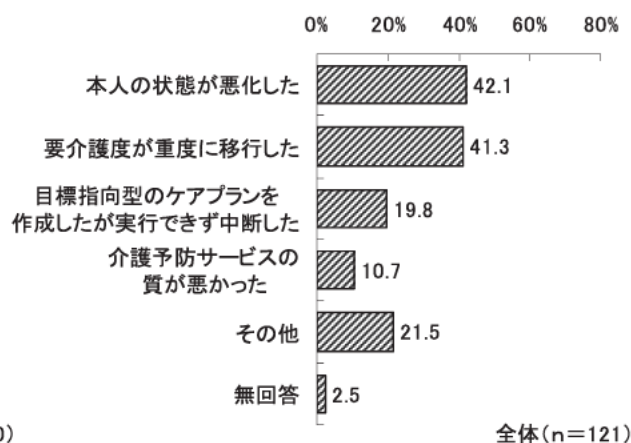


介護予防マネジメントの効果については、「効果があった」が 54.7%、「効果が得られなかった」は 15.0%となっている。

【効果があった理由】



【効果がなかった理由】

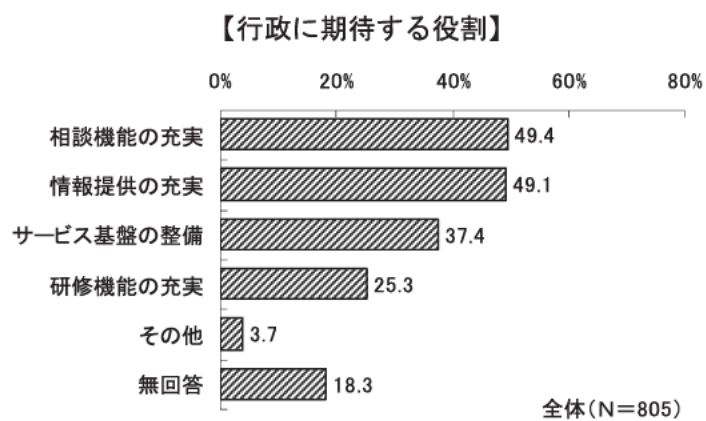


効果があった理由は、「要介護度が改善または維持した」が 57.0%、「自立支援により意欲的に日常生活を送れるようになった」が 56.1%で高い割合を占めており、効果がなかった理由では「本人の状態が悪化した」が 42.1%、「要介護度が重度に移行した」が 41.3%となっている。

7. 行政の役割について

(1) 行政に期待する役割

問33 今後、行政に期待する役割は何ですか。(〇はいくつでも)

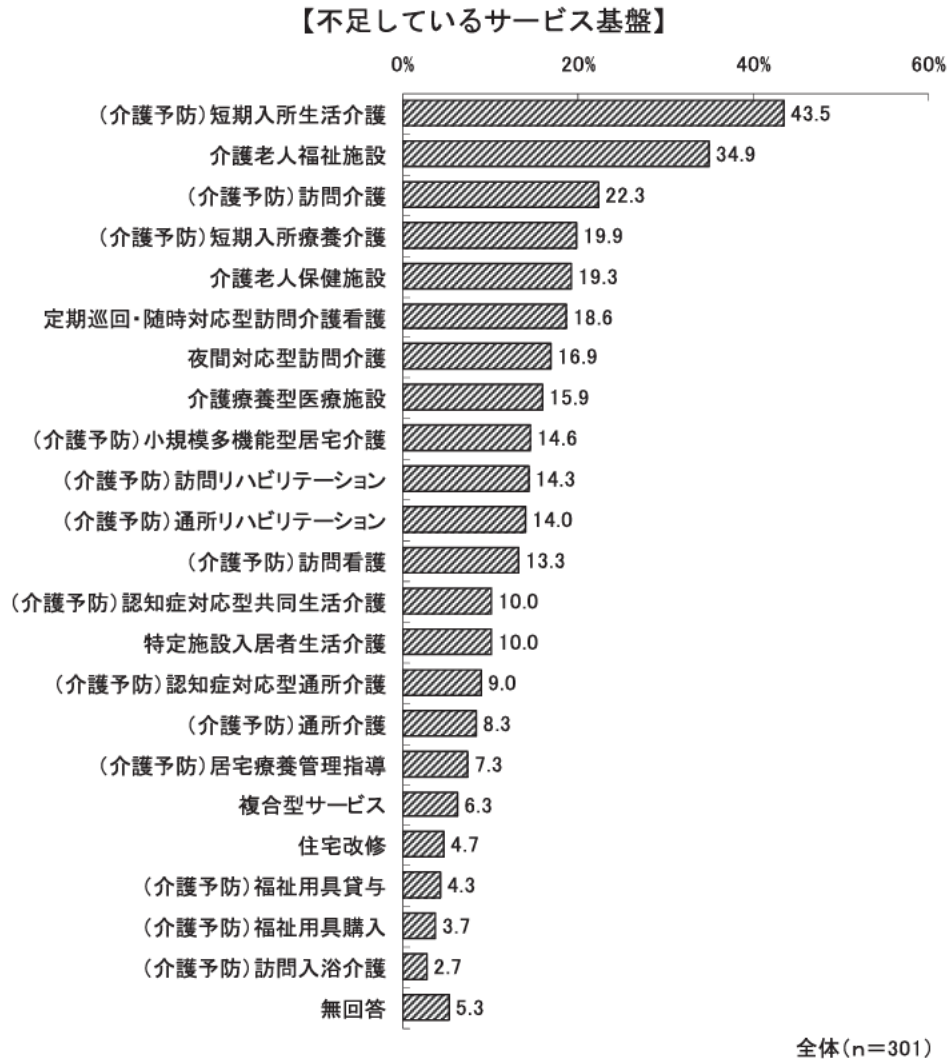


今後、行政に期待する役割は、「相談機能の充実」が49.4%で最も多く、次いで「情報提供の充実」が49.1%、「サービス基盤の整備」が37.4%、「研修機能の充実」と25.3%となっている。

(2) 不足しているサービス基盤

【問 33 で「3. 」と答えた方にうかがいます】

問 33-1 特にどのサービス基盤を整備する必要がある（需要に対して不足している）と思いませんか。（〇はいくつでも）



行政に期待する役割で「サービス基盤の整備」と回答した人（301人）に、特にどのサービスが需要に対して不足しているかをたずねたところ、「(介護予防)短期入所生活介護」の43.5%が最も多く、次いで「介護老人福祉施設」の34.9%、「(介護予防)訪問介護」の22.3%が続いている。